

環境会計

環境省「環境会計ガイドライン(2005年度版)」を参考にして開示しました。

あわせて、環境効率の定量的な評価を可能にするために環境効率性について評価を行いました。

2006年度の環境コストと効果

環境省のガイドラインを参考に、環境保全活動に関するコストと、設備投資、経済効果、保全効果を開示しました。また、環境保全活動を評価する指標として環境効率性評価の指

標も開示しました。これによると、2000年度と比較して2006年度は環境負荷を20.8%削減できました。

環境コスト(減価償却費込み)

単位:千円

	年度	環境コスト	環境設備投資額
1:公害防止コスト (大気、水質、土壌地下水、有害化学物質、騒音、振動、悪臭)	2005	124,657	23,521
2:地球環境保全コスト (地球温暖化防止コスト、環境保全対策費)		219,293	5,925
3:資源循環コスト (廃棄物削減、廃棄物適正処理、資源の効率的利用)		85,785	6,278
4:管理活動コスト (委員会やISO活動、環境管理に従事した時間やコスト)		11,349	
5:研究開発コスト		137,361	
6:社会活動コスト (事業所及び周辺以外の美化緑化推進他)		426	
合計		578,874	35,724
1:公害防止コスト (大気、水質、土壌地下水、有害化学物質、騒音、振動、悪臭)	2006	108,291	22,341
2:地球環境保全コスト (地球温暖化防止コスト、環境保全対策費)		248,713	11,881
3:資源循環コスト (廃棄物削減、廃棄物適正処理、資源の効率的利用)		73,670	
4:管理活動コスト (委員会やISO活動、環境管理に従事した時間やコスト)		9,836	
5:研究開発コスト		138,558	
6:社会活動コスト (事業所及び周辺以外の美化緑化推進他)		446	
合計		579,516	34,222

■環境保全効果

環境定義		環境負荷増減量		環境負荷量	
		2005年度	2006年度	2005年度	2006年度
事業エリア内コストに対応する効果	SOx排出量 (t)	-0.1	0.1	0	0.1
	NOx排出量 (t)	0	-1.1	6.1	5.0
	水使用量 (万m ³)	-4.6	-3.99	35.3	31.3
	BOD負荷量 (t)	-0.3	-0.9	3.5	2.6
	CO ₂ 排出量 (万t)	-0.08	-0.16	2.46	2.30
	エネルギー使用量 (万GJ)	-1.52	-3.30	51.33	48.03
	廃棄物総排出量 (t)	86	-281	911	630
	廃棄物最終埋立処分量 (t)	-3	2	32	34

■環境活動に伴う経済効果

単位:千円

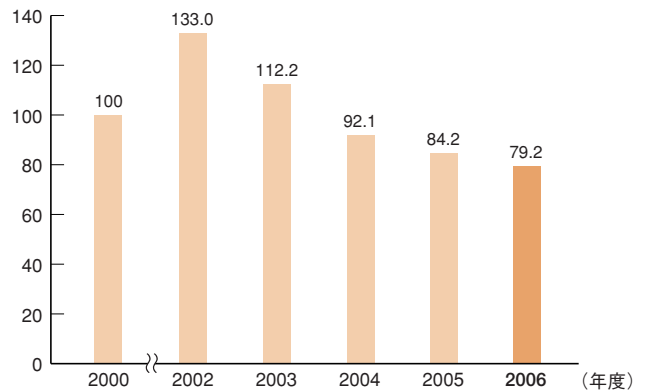
環境定義		年度	合計
1	省エネ活動に伴う費用削減額	2005	3,209
2	リサイクル活動に伴う廃棄物費用削減額		170
3	リサイクルによる回収品売却益		102
年度計			3,482
1	省エネ活動に伴う費用削減額	2006	4,177
2	リサイクル活動に伴う廃棄物費用削減額		0
3	リサイクルによる回収品売却益		117
年度計			4,294

環境会計

■ 環境効率性の評価

当社は、排出する環境負荷量を化学物質、地球温暖化、廃棄物、水質、大気の5項目に分類し、それぞれ代表的な環境因子を選び、それらの排出量をその年度の売上高で割った値を求め、その値により環境保全活動でどの程度環境負荷を削減できたかを評価できる指標を開示しました。これによると、2000年度と比較して、2006年度は環境負荷を20.8ポイント削減できました。

■ 環境負荷指数



■ 環境効率性評価に用いる因子とその算出方法

環境負荷量	事業活動により環境に影響を与える要素の環境負荷量とし、以下の環境因子を評価に用いる 化学物質：PRTR法指定物質の環境への排出量 地球温暖化：二酸化炭素の排出量 廃棄物：最終処分量 水質：BODの排出量 大気：ばいじん、NOx、SOxの合計排出量
環境負荷原単位	各項目の環境因子の排出量をその年度の売上高で除して算出 化学物質の環境負荷原単位(A)=PRTR法指定物質の排出量/売上高 地球温暖化の環境負荷原単位(B)=二酸化炭素の排出量/売上高 廃棄物の環境負荷原単位(C)=廃棄物最終処分量/売上高 水質の環境負荷原単位(D)=BODの排出量/売上高 大気の環境負荷原単位(E)=ばいじん・NOx・SOxの総排出量/売上高
環境負荷指数	基準年度の環境負荷原単位の総量を100とした時の相対値であり、5つの環境因子について、基準年度(2000年度)の各項目の環境負荷指数を20(5項目の合計が100)に設定する 評価する年度の環境負荷原単位を基準年度の環境負荷原単位で除した値に20を乗じて算出(計算式は以下に記載) $\text{総環境負荷指数} = 20 \times \left(\frac{A}{A_0} + \frac{B}{B_0} + \frac{C}{C_0} + \frac{D}{D_0} + \frac{E}{E_0} \right)$ 注) 評価年度のそれぞれの環境負荷原単位をABCDE、基準年度の環境負荷原単位をA0B0C0D0E0と表記した